

# 泥田バレー 歴史に幕

## 88チーム最後の大会楽しむ

中津

中津市三光佐知で2日、第25回泥田バレーボール大会が開かれ、県内外から集まった88チームが、泥まみれになりながら楽しんでいる泥んこバレーの「元祖」とされる大会だが、今回で四半世紀の歴史に幕を下ろした。

大会は、地元の活性化に取り組む「竹馬会」（佐賀一彦会長、70人）の主催。今回は、最多の126チームから出場申し込みがあり、抽選で、京都府、山口、福岡、長崎県などのチームに決まった。

選手たちは、そろいのTシャツ姿だけでなく、看護



泥まみれになりながらプレーする選手たち

師の白衣や花嫁衣装を着て登場。あいにくの雨で肌寒い一日だったが、泥のコートで歓声を上げながら懸命にボールを追ひ、熱戦を繰り広げた。観客は、選手が泥だらけになる様子に声援を送っていた。

佐賀会長は「会員の高齢化もあり、区切りのいいところで終わりにした。みなさんから、これまでの活動に対して、ねぎらいの言葉をかけていただき、続けてきてよかったと実感しました」と笑顔を見せていた。